

＜ あなたの治療について ＞

血内 - ビキセオス - AML - Induction（初回） - q2w

今回の治療は、ビキセオスという治療法で、ビキセオスという注射薬で治療を行います。ビキセオスは、腫瘍の増殖を抑えるお薬です。

◎治療全体の流れ

今回の化学療法は2週間が1コースとなっています。1日目と3日目、5日目に点滴を行います。この治療を1コース行います。副作用が強く出たり、体調がすぐれない場合は回復するまで、治療を延期したり、お薬の量を減らしたりすることがあります。

◎1コース分の治療スケジュール

順序	薬剤商品名 (薬の作用)	投与	1日目	2日目	3日目	4日目	5日目	6～14日目
①	グラニセトロン (吐き気止め)	点滴 約15分						
②	ビキセオス (抗がん剤) 100U/m ²	点滴 約90分		お休み		お休み		お休み

★ 点滴中や点滴後に、注射部位が痛い、赤くなっている、水ぶくれができる、ただれるなどの症状に気づいたときは、すぐに申し出てください。また点滴中は、体を動かすことにより針がずれ、点滴漏れが生ずることがありますので気をつけて下さい。

◎起こりやすい副作用について（頻度 20%以上）

ビキセオスによる

●発熱性好中球減少症 ●血小板減少症 ●悪心・食欲減退 ●下痢 ●疲労

◎特徴的な副作用について

ビキセオスにおける

●心臓・心筋障害

「息苦しい、息切れ、疲れやすい、むくみ、体重の増加、体がだるい、血圧低下、しめ付けられるような胸の痛み、冷汗が出る、めまい、顔面蒼白（そうはく）、手足が冷たくなる、動悸、意識の消失、発熱」などの症状

●過敏反応

「寒気、冷汗が出る、めまい、顔面蒼白、手足が冷たくなる、動悸、息苦しい、ふらつき、発熱、意識の低下・消失、口唇周囲のはれ、全身のかゆみ、じんま疹、発疹」などの症状

●腫瘍崩壊症候群

「意識の低下、意識の消失、尿量が減る、息苦しい、息切れ」などの症状

●痙攣・意識障害

「顔や手足の筋肉がぴくつく、一時的にボーっとする、手足の筋肉が硬直しガクガクと震える、意識の低下、意識の消失」などの症状

●眼症状・皮膚症状

「発熱、筋肉の痛み、骨の痛み、発疹、胸の痛み、胸の鈍い痛み、目の充血、目やに、目の痛み、体がだるい」などの症状

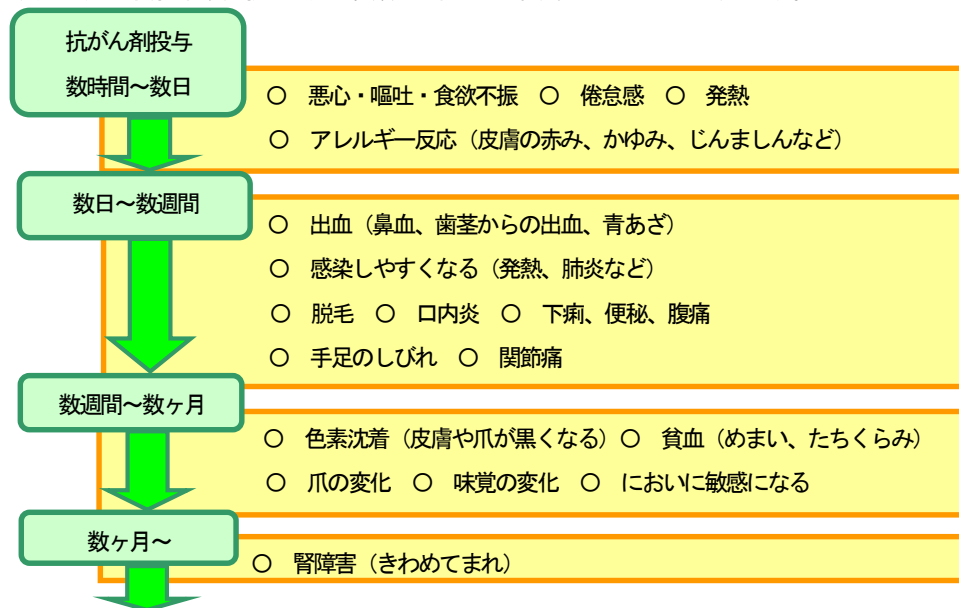
*上記症状が現れたときは、必ず医師・看護師・薬剤師にご相談下さい。

◎副作用の発現時期の目安

*この図は、今回用いられている抗癌剤による副作用だけでなく、他の抗癌剤によって起こる副作用も含まれています。

これらの副作用がすべてあらわれるわけではありません。

また、発現する時期や程度も抗癌剤の種類や患者さんの体質により個人差があります。



◎副作用の対策について

★吐き気・嘔吐、下痢と便秘、口内炎、感染症、出血、貧血、脱毛などの副作用の対策について知りたい方は、資料をお渡しすることができますのでお申し出下さい。

◎薬品毎の副作用について（添付文書における重大な副作用を製薬会社作成「薬のしおり」などから抜粋）

まれな副作用ですが、この様な症状が現れた際には医師・薬剤師・看護師へご相談下さい。

【ビキセオス】

[骨髄抑制] 貧血症状、発熱、出血傾向

[心臓障害] 胸の痛み、動悸、息切れ

[呼吸障害] 呼吸をしにくい、めまい、頭痛

[腫瘍崩壊症候群] 脇腹の痛み、血尿

[ネフローゼ症候群] 乏尿、全身の著明なむくみ、呼吸困難

◎ 上記のほかにも副作用が現れることがあります。

他にもからだの異常を感じたら、主治医や薬剤師、看護師に相談してください。